



**ミネベア株式会社決算説明会**  
**2005年3月期決算**

2005 (平成17)年 5月13日

代表取締役 社長執行役員 山本 次男

## 2005年3月期連結業績

(百万円)	2004/3期	2005/3期	伸び率 前年比	11月修正計画	
	通期	通期		通期	計画比
売上高	268,574	294,422	+9.6%	300,000	98.1%
営業利益	18,104	14,083	-22.2%	14,000	100.6%
経常利益	13,800	10,206	-26.0%	10,000	102.1%
税引前利益	12,958	7,778	-40.0%	9,000	86.4%
純利益	6,019	5,581	-7.3%	5,000	111.6%

**総括** 機械加工品事業は全製品が好調。  
電子機器事業の一部に課題、減益に。

為替の影響 04/3期 → 05/3期  
 USドル 113.97円 → 107.46円  
 タイパーツ 2.79円 → 2.67円  
 売上高 マイナス102億円  
 営業利益 マイナス4億円

2005年5月13日

1



2005年3月期の業績は、売上高 2,944億円、営業利益 141億円、経常利益 102億円、純利益 56億円となりました。

2005年3月期は、11月に発表しました修正利益計画をほぼ達成できました。しかし、ミネベア・松下モータ合弁事業のロイヤリティ見直しによる戻し益を11月発表の修正計画には織り込んでいませんでしたので、実質は計画を下回る結果となりました。また、前期に比較して大幅な減益でありました。

機械加工品事業は当社の競争力を十分に活かすことができ、大変良い結果でしたが、電子機器事業は一部の事業損益が悪化し、全体利益の足を引っ張る結果となりました。

# 通期セグメント別収益

(百万円)	2004/3期 通期	2005/3期 通期	前期比 伸び率	2005/3期 下期実績	11月修正 計画 下期	実績 対計画
<b>〔売上高〕</b>						
機械加工品	111,692	116,105	+4.0%	58,755	60,650	96.9%
ベアリング関連製品	94,604	98,218	+3.8%	49,065	51,047	96.1%
その他機械加工品	17,089	17,887	+4.7%	9,690	9,603	100.9%
電子機器	156,881	178,317	+13.7%	88,917	92,600	96.0%
回転機器	86,741	106,750	+23.1%	52,689	56,239	93.7%
その他電子機器	70,141	71,566	+2.0%	36,226	36,360	99.6%
<b>合計</b>	<b>268,574</b>	<b>294,422</b>	<b>+9.6%</b>	<b>147,671</b>	<b>153,249</b>	<b>96.4%</b>
<b>〔営業利益〕</b>						
機械加工品	19,505	21,572	+10.6%	11,094	11,522	96.3%
電子機器	△ 1,400	△ 7,489	-	△ 2,479	△ 2,990	-
<b>合計</b>	<b>18,104</b>	<b>14,083</b>	<b>-22.2%</b>	<b>8,615</b>	<b>8,532</b>	<b>101.0%</b>

2005年5月13日

2



機械加工品セグメントの営業利益は216億円と、前期に対し10%超の増益となりました。

電子機器セグメントは、課題3事業の問題により75億円の営業損失を計上しました。

# 四半期セグメント別収益

(百万円)	2004/3期				2005/3期				4Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前年同期比	前四半期比
<b>〔売上高〕</b>										
機械加工品	28,606	27,059	27,434	28,593	28,256	29,094	28,927	29,828	+4.3%	+3.1%
ベアリング関連製品	23,959	23,169	23,324	24,152	24,247	24,906	24,491	24,574	+1.7%	+0.3%
その他機械加工品	4,646	3,892	4,109	4,442	4,009	4,188	4,436	5,254	+18.3%	+18.4%
電子機器	37,883	40,193	41,294	37,511	43,067	46,333	46,254	42,663	+13.7%	-7.8%
回転機器	21,458	22,184	22,209	20,890	26,852	27,209	27,350	25,339	+21.3%	-7.4%
その他電子機器	16,424	18,011	19,084	16,622	16,216	19,124	18,903	17,323	+4.2%	-8.4%
<b>合計</b>	<b>66,489</b>	<b>67,252</b>	<b>68,728</b>	<b>66,105</b>	<b>71,324</b>	<b>75,427</b>	<b>75,180</b>	<b>72,491</b>	<b>+9.7%</b>	<b>-3.6%</b>
<b>〔営業利益〕</b>										
機械加工品	4,908	4,270	5,035	5,292	5,082	5,396	5,952	5,142	-2.8%	-13.6%
電子機器	△648	937	△503	△1,186	△2,279	△2,731	△1,786	△693	-	-
<b>合計</b>	<b>4,259</b>	<b>5,208</b>	<b>4,531</b>	<b>4,106</b>	<b>2,802</b>	<b>2,666</b>	<b>4,165</b>	<b>4,449</b>	<b>+8.4%</b>	<b>+6.8%</b>

2005年5月13日

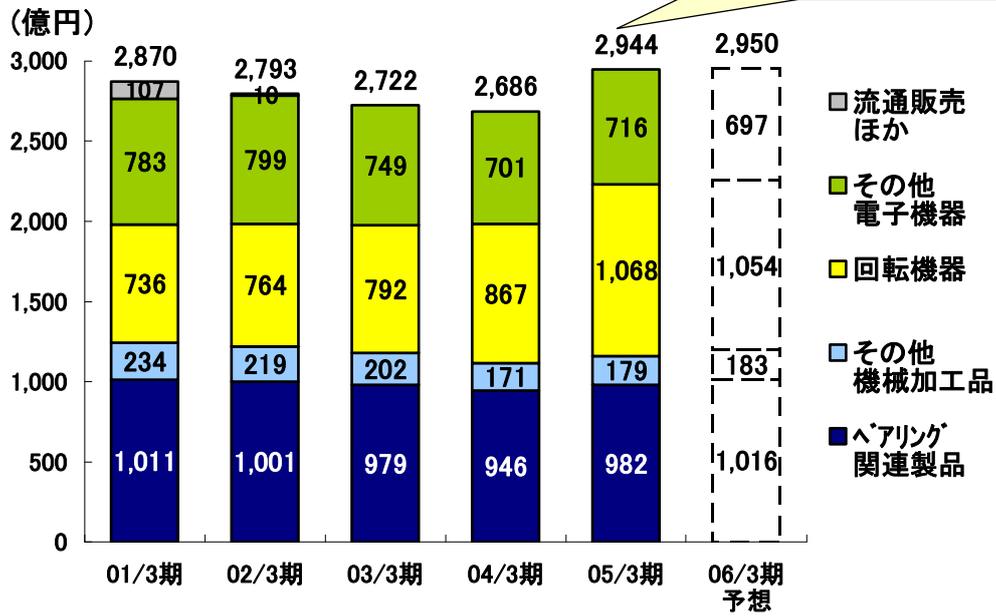
3



四半期ごとの詳細です。

# セグメント別売上高推移

全部門が増加。  
ベアリング関連製品の売上高が増加。  
ミネベア・松下モータ合併事業設立により、  
回転機器事業が拡大。



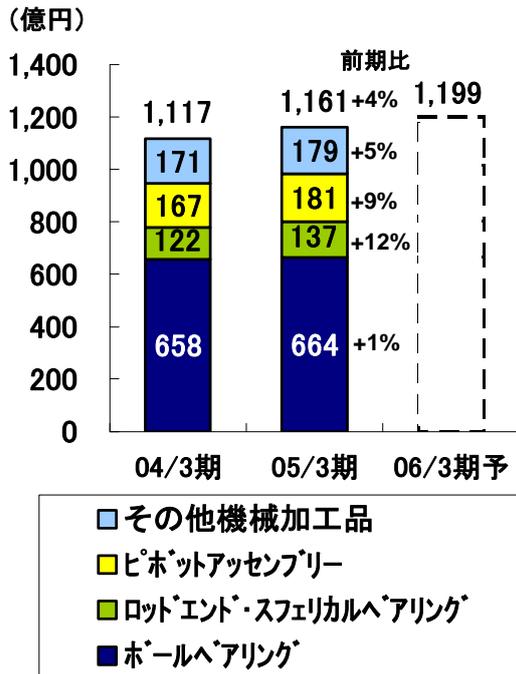
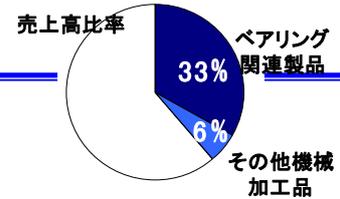
2005年5月13日

4



2005年3月期の売上高の最大のポイントは、ベアリング関連製品の売上高が4期ぶりに増収に転じたこととあります。

# 機械加工品セグメント 売上高



## ボールベアリング

- ・ 2005.3期のミニチュア・小径ボールベアリングの販売数量は前年比10%増。期初から、単価は比較的安定。PCファン用やOA機器向けが好調に推移。

## ロッドエンド&スフェリカルベアリング

- ・ 航空機市場が回復。新規受注も獲得。

## ピボットアッセンブリー

- ・ HDD市場が好調、中でも小型用が急拡大。高シェアをキープ。

2005年5月13日

5

Minebea

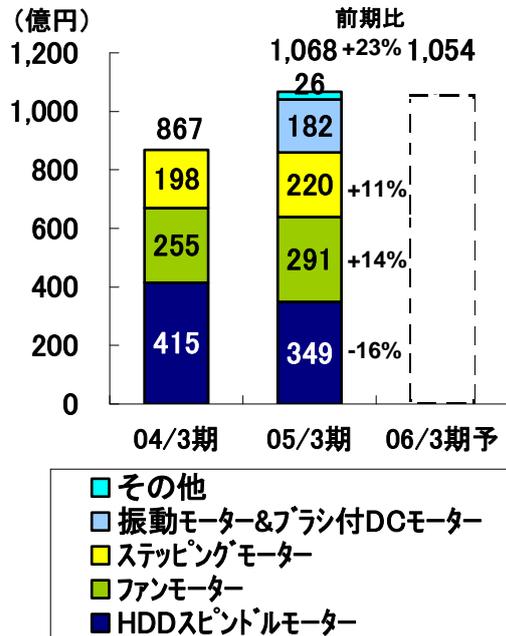
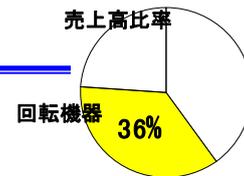
2005年3月期、ミニチュア・小径ボールベアリングの販売数量はPC用ボックスファン、自動車向け、OA機器向けを中心に前年比10%拡大しました。

ロッドエンドスフェリカルベアリングでは航空機市場が回復してきました。

ピボットアッセンブリーでは、小型HDD市場が急速に広がり当社にとって優位な状況となり、高シェアを維持しました。

2006年3月期は、円高の影響を想定していますが、ピボットアッセンブリーの需要拡大が期待され、航空機向けのベアリングも堅調に推移すると見ております。

# 電子機器セグメント回転機器 売上高



## HDDスピンドルモーター

- ・ 2005.3期の販売数量は前年比10%減。

## ファンモーター、ステッピングモーター 振動モーター&ブラシ付DCモーター

- ・ ミネベア・松下モータ合弁事業設立による上乗せ効果。

2005年5月13日

6



回転機器事業はHDDスピンドルモーターの売上高が大幅に減少しました。

ファンモーター、ステッピングモーター、振動モーターとブラシ付DCモーターの売上高はミネベア・松下モータ合弁事業の上乗せ効果で、増加しました。

2006年3月期につきましては、全体的に横ばいから若干の減収とみております。



## 2005年3月期通期 用途別売上高・地域別売上高

### 用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信 機器(OA)	PC及び 周辺機器	モーター	その他	合計
売上高比率	10.0%	8.7%	10.3%	15.5%	37.8%	5.1%	12.6%	100.0%
前年比伸び率	+40.2%	+3.9%	+14.5%	+60.5%	-6.8%	+3.6%	+8.8%	+9.6%

PC及び周辺機器の売上高比率が  
04.3期の44%から低下。  
自動車向け、情報通信機器が増加。

### 地域別売上高

	日本	アジア (除 日本)	北米・ 南米	欧州	合計
売上高比率	26.7%	47.6%	15.6%	10.0%	100.0%
前年比伸び率	+13.4%	+15.3%	+1.5%	-8.5%	+9.6%

中華圏の売上高は、  
現地通貨ベース前年比30%増。

2005年5月13日

8

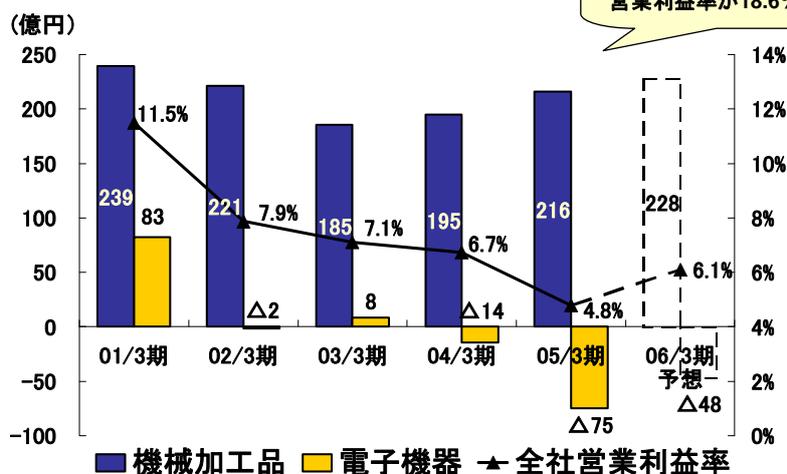
 Minebea

PC及び周辺機器の売上高比率が低下する一方、自動車、家電、情報通信機器が増え用途の裾野を広げることができました。

ミネベア・松下モータの製品は情報通信機器、家電、自動車向けに寄与しました。

地域別につきましては、欧州以外の全地域の売上高が増え、特に日本が4期ぶりに増加しました。

# セグメント別営業利益推移



	01/3期	02/3期	03/3期	04/3期	05/3期	06/3期 予
機械加工品	19.2%	18.1%	15.7%	17.5%	18.6%	19.0%
電子機器	5.4%	-0.1%	0.5%	-0.9%	-4.2%	-2.7%
流通販売ほか	7.6%	0.0%	—	—	—	—
合計	11.5%	7.9%	7.1%	6.7%	4.8%	6.1%

注: グラフでは流通販売ほかの営業利益を省略 01/3期は8億円、02/3期0億円  
各セグメントの営業利益率は外部顧客に対する売上を使用

2005年5月13日

9

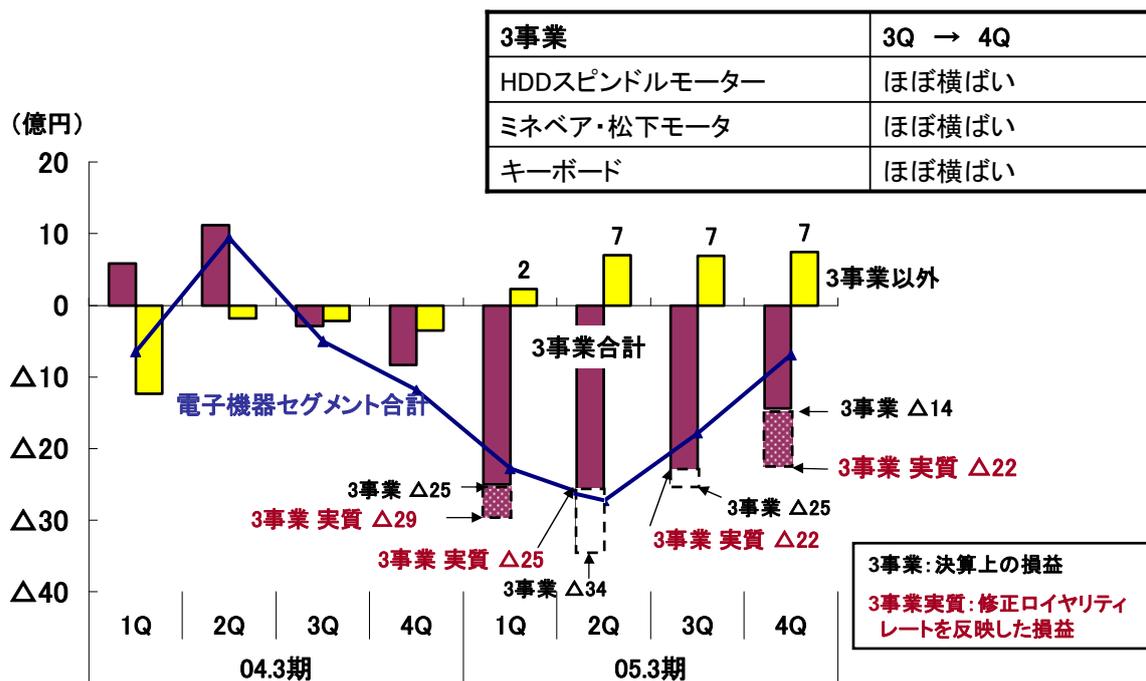


機械加工品の営業利益率は18.6%となり、前期より1.1ポイント上昇しました。

ボールベアリングは販売数量の増加だけでなく、原価低減、多様化する客先のニーズへの対応により、事業体質が強化されました。ロードエンドベアリングとピボットアッシーも利益へ大きく貢献してきました。

新年度は、機械加工品事業の一段の拡大が期待できると思います。

# 電子機器セグメント営業損益内訳



2005年5月13日

10



こちらのグラフは、3事業に修正ロイヤリティを反映させた場合の状況を示しています。第4四半期は改善を果たせませんでした、新年度は赤字を削減していきます。

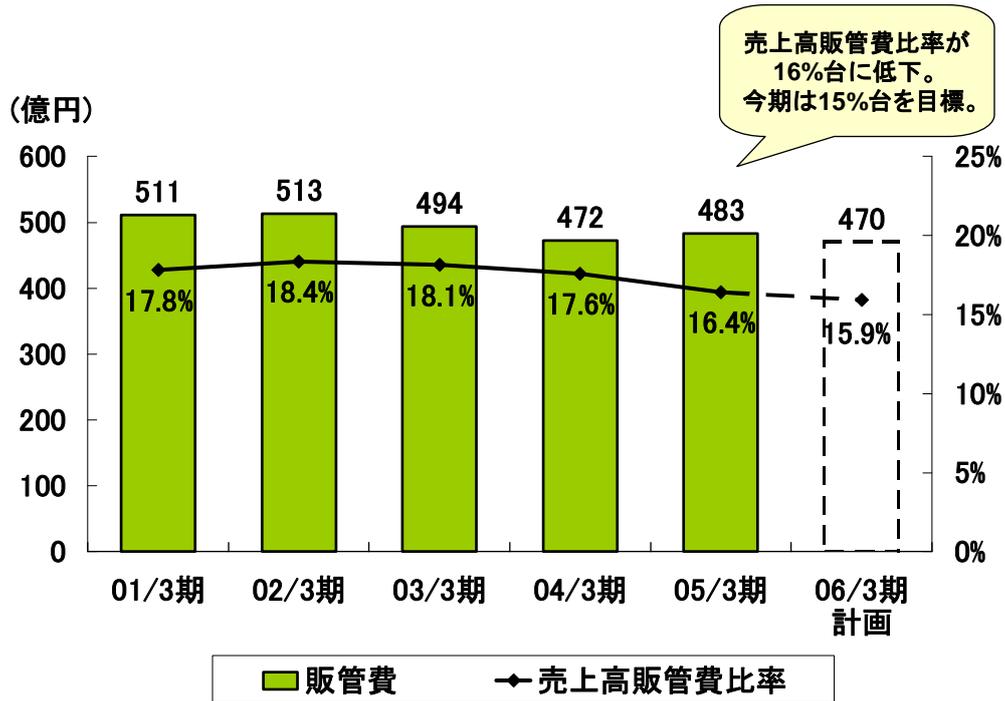
スピンドルモーター事業の今後は、新製品の成功にかかっています。

ミネベア・松下モータ合併事業は、構造改革を進めており、下期には損益を改善できる見込みです。

キーボード事業は、ノートのSSTへの移管を開始し、9月までに移管は完了する予定です。下期には黒字化を果たせると思います。

3事業以外の事業につきましては、バックライトと計測機器の高収益、スピーカーの損益改善により、利益体質を確立できたと言えます。

# 販管費



2005年5月13日

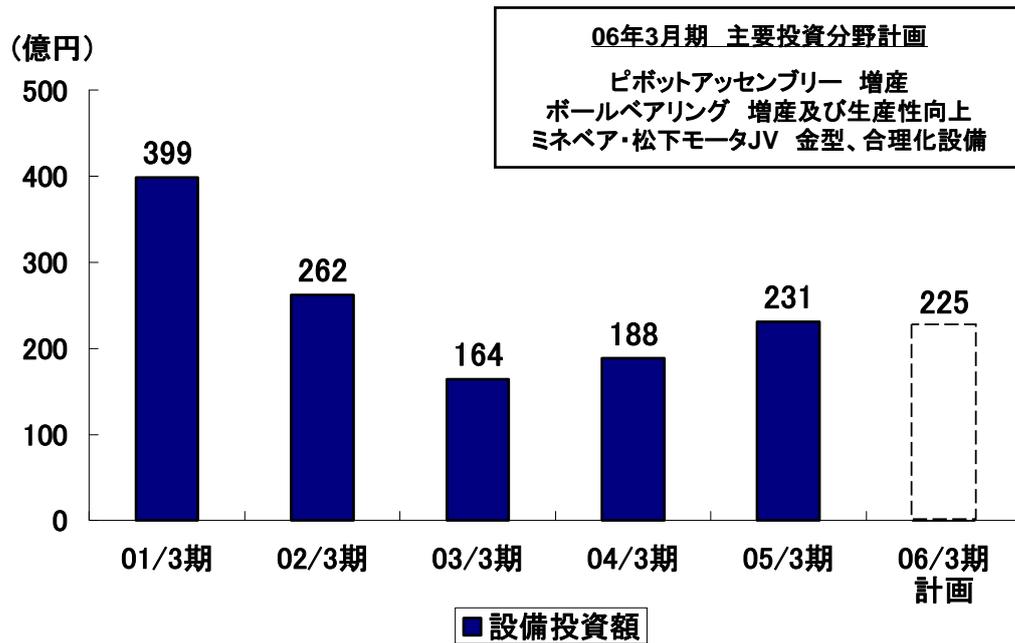
11



ミネベア・松下モータ合弁事業の設立があり、販管費は増えてきましたが、売上高比率では初めて16%台に下がりました。

2006年3月期はさらに減らし、16%を切ることを目標とします。

# 設備投資額



2005年5月13日

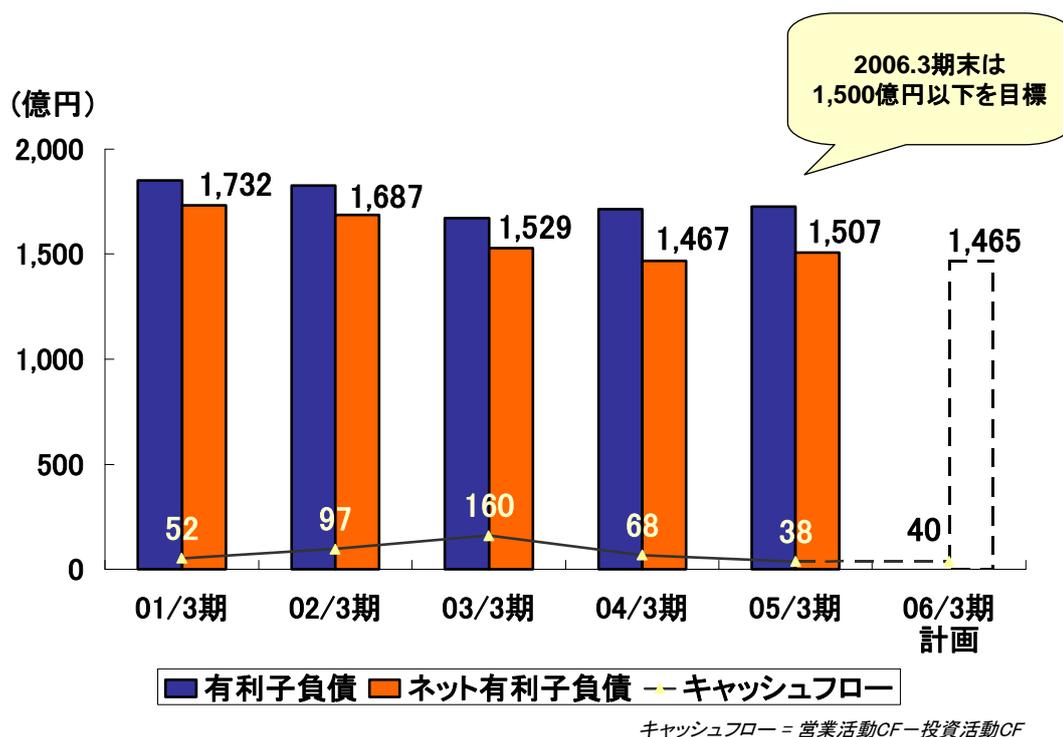
12



2005年3月期は、231億円の設備投資を実施しました。

主に、ボールベアリングの増産とボールの新工場の新設、ピボットアッセンブリーの増産、FDBユニット部門の新設、ミネベア・松下モータの効率化設備、キーボードのSSTの生産能力増強、モールド部品の機械設備と金型でした。

# 有利子負債



2005年5月13日

13



2005年3月期末のネット有利子負債は1,507億円でした。  
 2006年3月期末は1,500億円を再度切ることを予定しています。

## 2006年3月期 連結業績予想

(百万円)	2005/3期 通期	2006/3期 通期予想	前期比 伸び率
売上高	294,422	295,000	+0.2%
営業利益	14,083	18,000	+27.8%
経常利益	10,206	14,000	+37.2%
税引前利益	7,778	12,500	+60.7%
当期純利益	5,581	7,500	+34.4%

為替想定 05/3期 → 06/3期  
 U\$ドル 107.46円 → 103.00円  
 タイバーツ 2.67円 → 2.60円

2005年5月13日

14



2006年3月期の業績の計画です。

営業利益は180億円、当期利益は75億円を予定しています。

## 2006年3月期 セグメント別収益予想

(百万円)	2005/3期 通期	2006/3期			前期比 伸び率
		上期予想	下期予想	通期予想	
〔売上高〕					
機械加工品	116,105	58,500	61,400	119,900	+3.3%
ベアリング関連製品	98,218	49,800	51,800	101,600	+3.4%
その他機械加工品	17,887	8,700	9,600	18,300	+2.3%
電子機器	178,317	83,500	91,600	175,100	-1.8%
回転機器	106,750	49,600	55,800	105,400	-1.3%
その他電子機器	71,566	33,900	35,800	69,700	-2.6%
合計	294,422	142,000	153,000	295,000	+0.2%
〔営業利益〕					
機械加工品	21,572	11,250	11,500	22,750	+5.5%
電子機器	△ 7,489	△ 3,750	△ 1,000	△ 4,750	-
合計	14,083	7,500	10,500	18,000	+27.8%

2005年5月13日

15



今期計画の内訳です。

# 新経営体制と今後の方針について

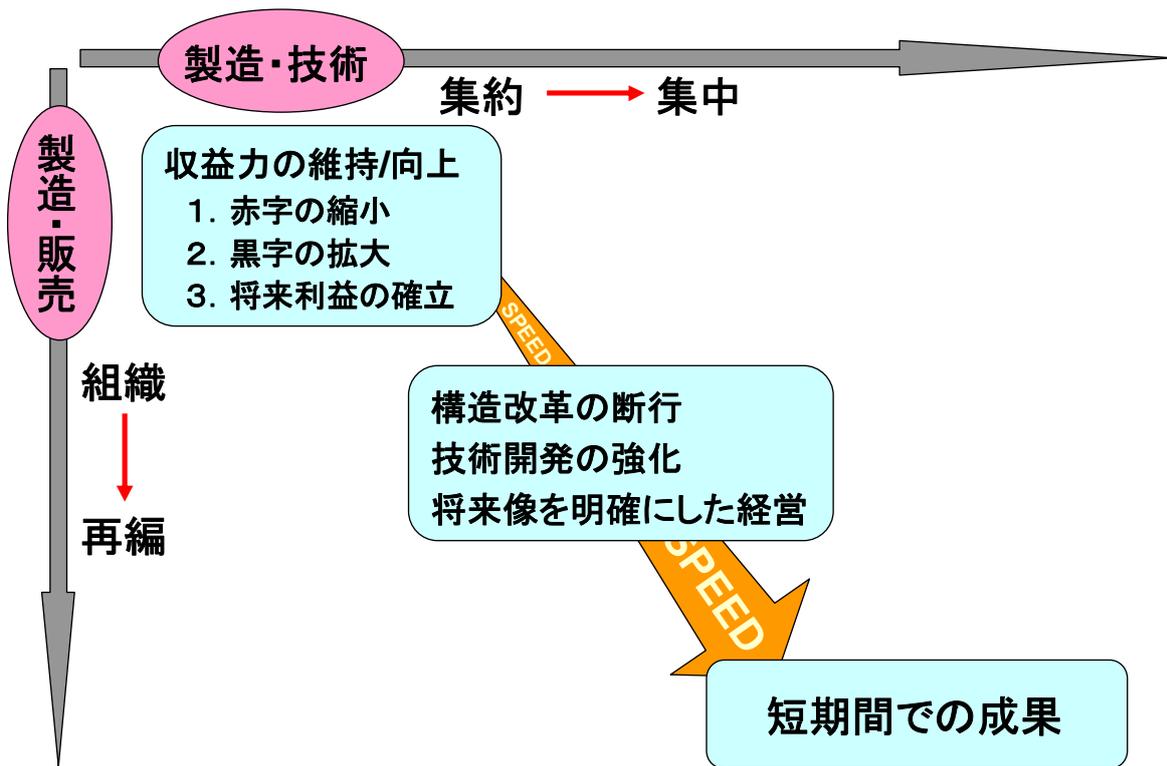
2005年5月13日

16



新社長候補の山岸孝行取締役専務執行役員より、新社長としての考え方、経営方針をご説明申し上げます。

# 経営目標



2005年5月13日

17

NMB Minebea

私の使命は収益力の向上、さらにこれらをスピード上げて果たしてゆく事と認識しています。

具体的には、赤字である事業の赤字額の縮小、黒字事業での利益拡大、将来利益を確立してゆける製品或いは事業の幅を広げることです。赤字である事業からの撤退については現時点で考えておりません。むしろ黒字転換に全力を挙げて取り組み、業容拡大に努めてゆく事が必要な事であると判断しています。

実践のために、基本方針として、1. 構造改革、2. 技術開発の強化、3. 将来像を明確にした経営、の三項を中心に据え遂行していきます。

構造改革に着手し、製造と販売面での縦割組織への再編、製造と技術面では社内に分散しているものを集約し、改善を必要とする場面に集中的に投入する事でスピードを上げ、成果へつなげてゆく所存です。

# 新経営基本方針

---

## 1. 構造改革の断行

製造及び営業組織の再編  
製造の横断的組織の構築  
社内横断的な支援機能の強化

## 2. 技術開発の強化

基礎技術開発の強化  
社内の技術を集約・再編出来る組織の構築

## 3. 将来像を明確にした経営

市場で優位に展開出来る製造技術面の強化  
市場の要求する将来技術を軸にした製品の展開

2005年5月13日

18

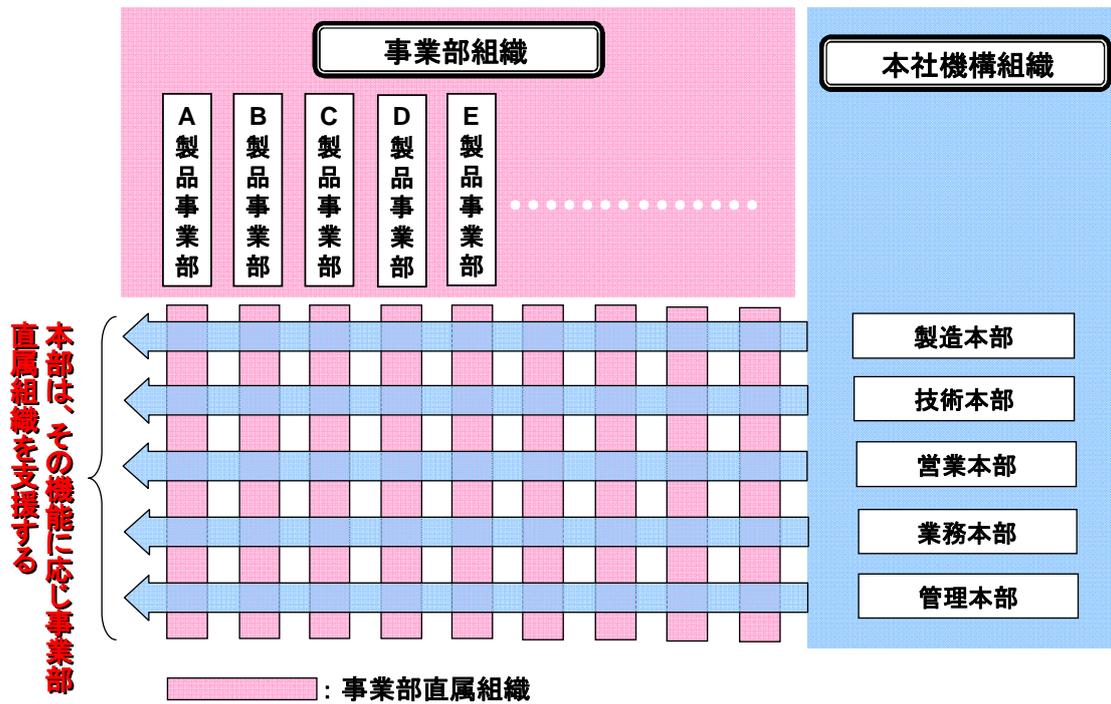


構造改革につきましては、責任と権限を明確にして、組織が機能的に活動出来る体制とします。製造と営業の組織は事業単位の事業部制とします。製造に関しては製造技術の集約を図り、社内横断的に事業部に対し支援を行うことで、集中すべき問題点のプライオリティーを明確にします。

技術開発の強化を図っていきます。特に将来に備えた基礎技術開発を重視します。また、グループ内に分散している技術を集約します。

将来像を明確にした経営については、市場の進む方向を見極めた製品展開、技術展開を常に考えていきます。

# 組織の再構築



2005年5月13日

19



事業部組織としては各製品区分ごとに製造から販売までの一貫した形の組織にします。

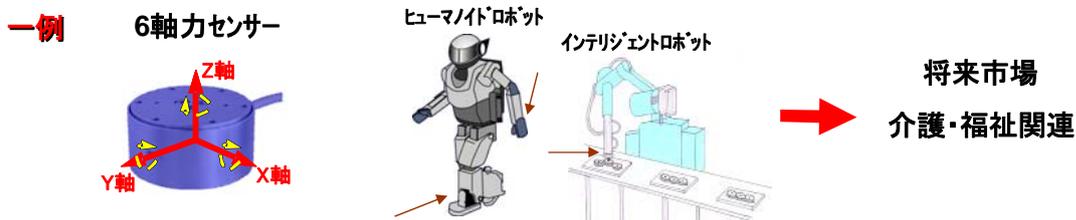
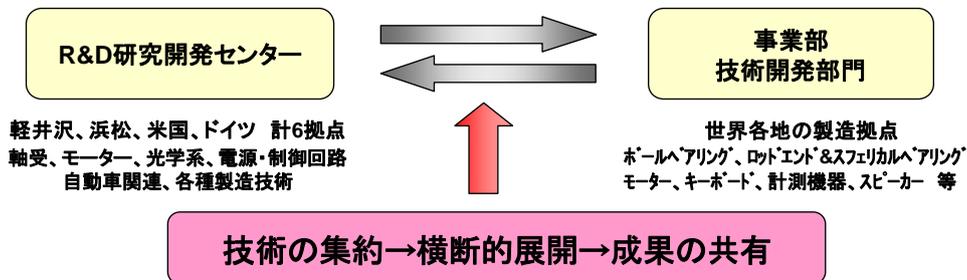
これに対して本社機構として図に示した様な本部を設け、各事業部に対して横断的に支援業務を展開する形とします。

# 技術開発の強化

- ◆ 基礎研究開発の強化
- ◆ グループ内の技術面での相互交流

中長期視野の基礎研究開発及び製品開発

ビジネスに直結する新製品開発



2005年5月13日

20



技術開発の強化を基本方針として進めていきます。

基礎技術開発の強化では、材料、メカ、モーター、電子回路、光学等の基礎的な技術開発を集約して行うことにします。

また、社内にある色々な技術を有効的に結びつけ将来市場が求める製品の開発へつなげます。

# 当面の方針

---

## 1. 赤字の縮小

課題三事業の収益改善へ集中

## 2. 黒字の拡大

ベアリング及び関連事業での売上拡大

## 3. 将来利益の確立

(回転機器事業の強化)

高付加価値製品への集中

ディスプレイ周辺部品での事業拡大

2005年5月13日

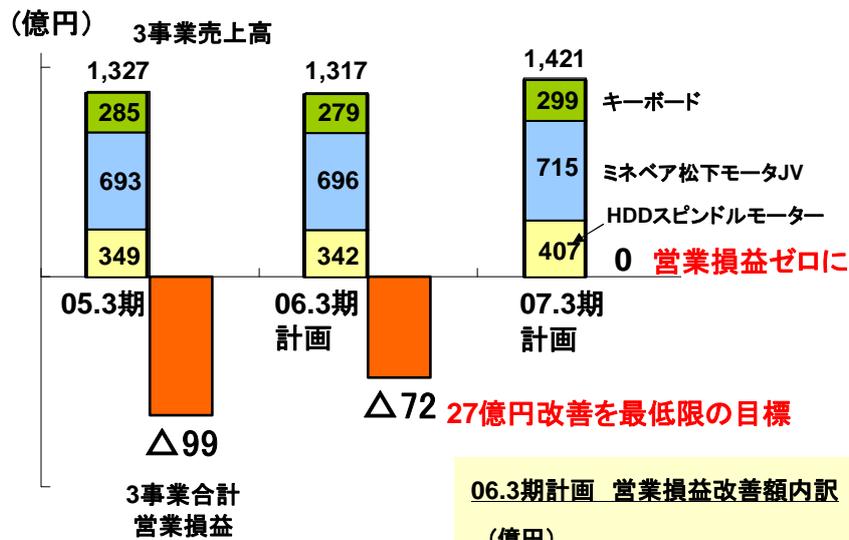
21



短期間で成果を上げる取り組みとして、上記三項目を具体的当面の対策として取っていきます。

赤字の縮小については課題三事業の収益改善へ集中、黒字の拡大はベアリング及び関連事業での売上拡大、将来利益の確立に対しては具体的にはディスプレイ周辺部品での事業拡大を推進していきます。

# 三事業の収益改善計画



## 06.3期計画 営業損益改善額内訳

(億円)	
HDDスピンドルモーター	+8
ミネベア・松下モータJV	+5
キーボード	+14
合計	+27

2005年5月13日

22



3事業の収益改善については、今期は前期から合計27億円の営業損益の改善を見込みます。この数値を最低限の目標とし、各事業の埋もれている重要な問題点を洗い出し、改善を加速させたいと考えています。

2007年3月期には3事業合計営業損益ゼロを目指します。

# ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2005年5月13日

23

